

2010年7月30日

(ご参考)

マツダ株式会社
2011年3月期 第1四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役 専務執行役員兼CFO

尾崎 清

本日は、まず2011年3月期 第1四半期の実績を総括し、次にその詳細をご説明し、最後にまとめをいたします。

1. 総括

売上高は対前年 35%増の 5,780 億円、営業利益は 64 億円となりました。フリーキャッシュフローも 146 億円の黒字を達成いたしました。販売面でも、主要地域での販売好調を反映し、グローバル販売台数は前年に対し 5 万 4 千台、21%増加の 31 万 7 千台と好調なスタートを切ることができました。商品面では、マツダ 2/デミオ、マツダ 3/アクセラ、マツダ 6/アテンザの販売好調が、主要国でのシェアアップを牽引してくれました。米欧の主要国で残存価値は引き続き向上しています。また、7 月に国内導入した新型プレマシーは、デザインや環境性能に高い評価をいただいています。順調な販売回復に備えるため、生産面では 7 月 5 日に宇品第 2 工場に夜勤操業を再開致しました。

新興国への取り組みも順調に進んでいます。

中国ではマツダ 3 の生産移管による需要増への対応を実施いたしました。主力車種の好調な販売により、過去最高の販売台数を達成しています。昨年生産を開始した AAT 製マツダ 2 は、タイ国内をはじめ、アセアン地域などで高い評価を得ており、タイ、オーストラリアなどでの最高販売台数の達成を牽引しています。このように、第 1 四半期は反転攻勢に向け堅調なスタートを切ることができました。上期及び通期の見通しについては、円高による悪化懸念はありますが、拡販活動の強化、仕向け地ミックスの改善、さらにはコスト領域での一層の効率化を推進することで、上期及び通期見通しの達成を目指してまいります。

2. 2011年3月期第1四半期実績

2011年3月期第1四半期の営業利益は64億円の黒字となり、前年に対して344億円の改善となりました。この改善の内訳については後ほど詳しくご説明いたしますが、販売好調による台数構成の改善及び、変動コスト、その他固定費を合わせたコスト改善が円高影響による悪化を上回ったことによるものです。経常利益は41億円となりました。資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額を特別損失として今四半期に27億円計上いたしました。その結果税引前利益は8億円、当期純損失は21億円となりました。

第1四半期のフリーキャッシュフローは146億円の黒字となりました。これは、継続的な効率化で投資を減価償却の範囲内に抑えたことによるものです。純有利子負債は3,667億円と前期に対し、1,802億円の改善、純有利子負債 自己資本比率も73%と64ポイント改善いたしました。自己資本比率も4ポイント改善いたしました。

第1四半期のグローバル販売台数は、前期に対し5万4千台増加の31万7千台となり好調なスタートを切ることが出来ました。需要が大きく減少している欧州を除き、主要市場で前期を大きく上回る販売を達成いたしました。車種では、引き続きマツダ3/アクセラがグローバルで好調な販売を継続するとともに、昨年10月からAATで生産を開始いたしましたマツダ2が、ASEAN、オーストラリアでの好調な販売を牽引しています。また、インセンティブを抑制し、ブランド価値を向上させる戦略も引き続き継続しています。

為替レートは第1四半期平均で1ドル92円、1ユーロ117円と、前年に比べ、ドルで5円、ユーロで16円の円高となっています。

販売実績を主要市場ごとにご説明します。

まず日本ではエコカー減税及び新車購入補助制度の追い風に加え、デミオ、アクセラの好調により、販売は前年を27%上回る5万2千台となりました。シェアは0.2ポイントアップし、4.5%を達成いたしました。7月に導入した新型プレマシーはそのデザインや、i-stopなど環境性能にも高い評価をいただいています。

北米では、マツダ3などの好調により、前年を21%上回る9万台を達成しています。米国のシェアは0.1ポイントアップの1.9%を獲得しており、その内ノンフリートは1.8%と過去最高のシェアを獲得しています。また、引き続き、フリート比率及びインセンティブの抑制など、ブランド価値向上の方針に変更ありません。その結果米国の残存価値は、2010年モデルイヤー マツダ3及びCX-9でセグメント中トップ、マツダブランド全体でも上位を維持しています。メキシコでは過去最高の台数及びシェアを達成しています。マツダ2は、8月より米国・カナダに本格導入いたします。第2四半期以降、好調なマツダ3、CX-7に加え、マツダ2の純増により販売拡大を図ってまいります。

欧州では奨励金抑制を維持し、ブランド価値向上の方針を継続しています。ドイツ・英国など主要国で、前年に対し残存価値も向上し、同時にシェアアップを達成しました。また、英国では5ヶ月連続で前年を上回る販売を達成しています。なお、ロシアを除くシェアは1.1%から1.2%に、0.1ポイントアップしています。

中国ではマツダ2、マツダ3、マツダ6など主力車種の好調により、第1四半期として過去最高の販売を達成しました。現地ブランドを除いたシェアも拡大しています。販売好調なマツダ3の生産を重慶から南京に移管し、今後の需要増に対応する体制が整いました。販売網もさらに拡大しており、店舗数は273店と12月末までに300店舗に拡大する計画は順調に進んでいます。

その他市場では全体で、対前年41%増加の6万8千台を達成しました。オーストラリアでは堅調なマツダ3に加え、マツダ2、CX-7の好調により過去最高の2万2千台の販売を達成しています。

タイではマツダ 2 の導入成功により過去最高の販売となる 1 万台を達成しました。インドネシアでもマツダ 2 の導入により過去最高の販売台数を達成しています。

次に、第 1 四半期の連結営業利益の前年に対する改善額 344 億円の主な要因についてご説明いたします。

まず台数構成ですが、主要市場での販売好調により 265 億円の改善となりました。為替は円高影響により、US ドルで 35 億円の悪化、ユーロで 39 億円の悪化、その他通貨の 27 億円の改善と合わせて 47 億円の悪化となりました。変動コスト領域では、44 億円の改善となりました。鋼材の値上げ影響は第 1 四半期から計上しており、これも含めた原材料の高騰影響を上回るコスト改善を実現いたしました。販売費用に関しては、北米での広告宣伝活動の強化に加え、その他市場への AAT 製マツダ 2 の導入などもあり、12 億円の費用増となりました。その他費用では、前期に構築したコスト構造をさらに強化することにより、94 億円の改善となりました。

3. まとめ

円高及び原材料高騰という厳しい外部環境の中、反転攻勢に向け堅調な滑り出しとなりました。グローバル販売台数は対前年 21%増加の 31 万 7 千台と販売も好調なスタートを切っています。マツダ 2/デミオ、マツダ 3/アクセラ、マツダ 6/アテンザなど主力車種は引き続き高い評価をいただき、主要国でシェアアップを達成するなど好調な販売を牽引しています。米欧の主要国で残存価値は引き続き向上しています。7 月に国内導入した新型プレマシーはデザインや環境性能に高い評価をいただいています。生産面では 7 月 5 日に宇品第 2 工場で夜勤操業を再開し、好調な販売に対応してまいります。中国のマツダ 3 の生産移管による需要増への対応、AAT 製マツダ 2 の導入成功など新興国への取り組みも順調です。2011 年以降導入予定の環境パワートレイン/次世代商品の開発も、計画通り進捗しています。冒頭に申しあげました通り、円高による悪化懸念に対し、拡販活動の強化、仕向地ミックスの改善活動、さらにはコスト領域での一層の効率化を推進することで、通期営業利益 300 億円、当期利益 50 億円の達成を目指してまいります。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。